四半期報告書

（第43期第２四半期）

自　平成26年８月１日
至　平成26年10月31日

株式会社ロック・フィールド

神戸市東灘区魚崎浜町15番地２

(E00482)

目　　次

頁

表　紙

第一部　企業情報
　第１　企業の概況
　　１　主要な経営指標等の推移 …… 1
　　２　事業の内容 …… 1
　第２　事業の状況
　　１　事業等のリスク …… 2
　　２　経営上の重要な契約等 …… 2
　　３　財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 …… 2
　第３　提出会社の状況
　　１　株式等の状況
　　(1) 株式の総数等 …… 5
　　(2) 新株予約権等の状況 …… 5
　　(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 …… 5
　　(4) ライツプランの内容 …… 5
　　(5) 発行済株式総数、資本金等の推移 …… 5
　　(6) 大株主の状況 …… 6
　　(7) 議決権の状況 …… 7
　　２　役員の状況 …… 7
　第４　経理の状況 …… 8
　　１　四半期連結財務諸表
　　(1) 四半期連結貸借対照表 …… 9
　　(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 11
　　四半期連結損益計算書 …… 11
　　四半期連結包括利益計算書 …… 12
　　(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 13
　　２　その他 …… 16
第二部　提出会社の保証会社等の情報 …… 17

［四半期レビュー報告書］

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の４の７第１項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年12月10日
【四半期会計期間】	第43期第２四半期（自　平成26年８月１日　至　平成26年10月31日）
【会社名】	株式会社ロック・フィールド
【英訳名】	ROCK FIELD CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼最高経営責任者　　岩田　弘三
【本店の所在の場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地２
【電話番号】	（代表）（０７８）４３５－２８００
【事務連絡者氏名】	上席執行役員管理本部長兼経理部部長　　伊澤　修
【最寄りの連絡場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地２
【電話番号】	（代表）（０７８）４３５－２８００
【事務連絡者氏名】	上席執行役員管理本部長兼経理部部長　　伊澤　修
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町２番１号）

第一部【企業情報】

第１【企業の概況】

１【主要な経営指標等の推移】

回次		第42期 第２四半期連結累計期間	第43期 第２四半期連結累計期間	第42期
会計期間		自平成25年５月１日 至平成25年10月31日	自平成26年５月１日 至平成26年10月31日	自平成25年５月１日 至平成26年４月30日
売上高	（百万円）	23,983	23,660	48,956
経常利益	（百万円）	593	624	1,679
四半期（当期）純利益	（百万円）	321	297	935
四半期包括利益又は包括利益	（百万円）	313	330	919
純資産額	（百万円）	22,885	23,289	23,251
総資産額	（百万円）	28,412	28,630	28,441
１株当たり四半期（当期）純利益金額	（円）	24.21	22.43	70.42
潜在株式調整後１株当たり四半期（当期）純利益金額	（円）	―	―	―
自己資本比率	（％）	80.5	81.3	81.8
営業活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	876	1,362	2,162
投資活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	△674	△438	△1,356
財務活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	△582	△499	△1,086
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高	（百万円）	8,228	8,760	8,331

回次		第42期 第２四半期連結会計期間	第43期 第２四半期連結会計期間
会計期間		自平成25年８月１日 至平成25年10月31日	自平成26年８月１日 至平成26年10月31日
１株当たり四半期純利益金額	（円）	8.54	8.55

（注）１．当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
２．売上高には消費税等を含んでおりません。
３．潜在株式調整後１株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

２【事業の内容】

当第２四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営んでいる事業内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第２【事業の状況】

１【事業等のリスク】

当第２四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

２【経営上の重要な契約等】

当第２四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

３【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第２四半期連結累計期間（平成26年５月１日～平成26年10月31日）におけるわが国経済は、消費税率引き上げによる駆け込み需要に対する反動は和らいでいるものの、円安に伴う輸入材の価格上昇などにより依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社は「The Mirai Salad Company」を目指し、販売時にお客様へ商品の付加価値をお伝えすることや、こまめにケース内の商品を整理するなどの丁寧な販売や、閉店までお買い物を楽しんでいただけるような品揃えを行う積極的な販売に取り組んでまいりました。店舗の規模や立地により品揃えに変化をつけた商品展開を行う基本品揃えを行いながら、閉店間際だけではなく朝の開店時、昼前、夕方のピーク前にしっかりと商品を取り揃えることで売上の確保を図りました。明日以降もお召し上がりいただけるおそうざい、パーソナルギフトとしてご利用いただけるおそうざいの開発も継続して行いました。天候不順や耐震補強工事に伴う店舗の一時休業などによる売上への影響もありましたが、人件費や経費のコントロールを行うことにより当第２四半期連結累計期間における業績は、売上高は23,660百万円（前年同期比1.3％減）、営業利益は604百万円（前年同期比7.4％増）、経常利益は624百万円（前年同期比5.3％増）、四半期純利益は297百万円（前年同期比7.3％減）となりました。

ブランド別の売上は次のとおりであります。

ブランド		平成26年４月期 第２四半期（連結）		平成27年４月期 第２四半期（連結）		対前期比
		売上	構成比	売上	構成比	
		百万円	%	百万円	%	%
ＲＦ１	サラダ	10,192	42.5	9,840	41.6	96.5
	フライ	4,012	16.7	4,018	17.0	100.1
	その他そうざい	3,078	12.9	3,015	12.8	97.9
	小計	17,283	72.1	16,873	71.4	97.6
神戸コロッケ		1,686	7.0	1,494	6.3	88.6
いとはん		1,684	7.0	1,736	7.3	103.0
融合		362	1.5	467	2.0	129.1
ベジテリア		1,031	4.3	860	3.6	83.4
グリーン・グルメ		1,827	7.6	2,091	8.8	114.4
その他		106	0.5	137	0.6	128.6
合計		23,983	100.0	23,660	100.0	98.7

主なブランド別の概況は次のとおりであります。

「ＲＦ１」ブランドにおきましては、スーパーや青果店における天候不順による野菜の価格高騰の影響もあり、サラダを中心に好調に推移しました。また、レジ付近のフライの品数を増やし、サラダをお買い上げいただいたお客様にプラスワン商品としてご提案できるような売場づくりを行いました。秋口には温かいシチューとパイ生地を組み合わせた新商品のポットパイやグラタンをおすすめすることで買い合わせの促進に繋げました。その結果、売上高は16,873百万円（前年同期比2.4％減）となりました。

「神戸コロッケ」ブランドにおきましては、にっぽんの魅力を再発見するコロッケと題した新商品を導入いたしました。週替わりでの定番コロッケの販売強化の取り組みとして、こまめな揚げたて商品の提供とセールストークによる商品価値の訴求に努めましたが、お買い上げ点数の増加に繋げることが出来ず、売上高は1,494百万円（前年同期比11.4%減）となりました。

「いとはん」ブランドにおきましては、素材のおいしさを堪能していただける旬の柿やさんま等を使用した和さらだや和え物を展開しました。なかでも付加価値の高い和風のローストビーフサラダや、旬の無花果と燻製チキンを合わせたサラダが人気を博し売上を牽引しました。また、季節野菜を取り入れた月替わりのフライ商品をおつまみとしておすすめするなど、客単価アップに貢献しました。その結果、売上高は1,736百万円（前年同期比3.0%増）となりました。

「ベジテリア」ブランドにおきましては、美容をテーマにした巨峰やいちじく等のジュースを導入し、女性のお客様を中心にご好評をいただきました。また、気温の変化に合わせてジュースやスープの試飲販売を行い、行列が絶えない売場を目指しましたが、冷夏や台風等による客数減少の影響を受け、売上高は860百万円（前年同期比16.6%減）となりました。

なお、当社グループはそうざい事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

（注）上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第２四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて429百万円増加し、8,760百万円となりました。

当第２四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、1,362百万円（前年同期比485百万円の増加）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益532百万円（前年同期比60百万円の減少）、減価償却費834百万円（前年同期比42百万円の減少）、法人税等の支払額234百万円（前年同期比326百万円の減少）等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、438百万円（前年同期比236百万円の減少）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出296百万円（前年同期比64百万円の減少）等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、499百万円（前年同期比83百万円の減少）となりました。これは、主に配当金の支払額292百万円（前年同期比0百万円の増加）、リース債務の返済による支出201百万円（前年同期比18百万円の減少）等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第２四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第２四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は87百万円であります。なお、当第２四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第２四半期連結累計期間において、新たに経営成績に重要な影響を与える事象は発生しておりません。また、経営戦略の現状と見通しにおきましても、前事業年度の有価証券報告書に記載した内容から変更はありません。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、主に百貨店との売上に関する契約等に基づき安定的に売上金の回収を行っております。また、直営店におきましては現金販売が中心となっているため、早期にキャッシュの回収を行うことができ、それにより仕入及び人件費の支払に関する運転資金は売上金の回収から得られたキャッシュから支出可能な状況にあります。

当第２四半期連結累計期間の各キャッシュ・フローの詳しい状況につきましては、「(2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

(7) 経営者の問題意識と今後の方針について

当社グループは、現在の事業環境に基づき最善の経営方針を策定することに努めております。今後も当社グループを取り巻く経営環境は厳しさを増すものと予想しております。このような状況を踏まえ、更なる業務改善や業務効率化等に取り組んでまいります。なお、具体的な内容につきましては、前事業年度の有価証券報告書の「第一部 企業情報　第２　事業の状況　３　対処すべき課題」をご参照ください。

第３【提出会社の状況】

１【株式等の状況】

（１）【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

②【発行済株式】

種類	第２四半期会計期間末現在発行数（株）（平成26年10月31日）	提出日現在発行数（株）（平成26年12月10日）	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	13,394,374	13,394,374	東京証券取引所市場第一部	単元株式数100株
計	13,394,374	13,394,374	－	－

（２）【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

（３）【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

（４）【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

（５）【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数（株）	発行済株式総数残高（株）	資本金増減額（百万円）	資本金残高（百万円）	資本準備金増減額（百万円）	資本準備金残高（百万円）
平成26年8月1日～平成26年10月31日	－	13,394,374	－	5,544	－	5,861

（６）【大株主の状況】

平成26年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数（千株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社岩田	兵庫県芦屋市大原町17-18	1,150	8.58
明治安田生命保険相互会社 （常任代理人　資産管理サービス信託銀行株式会社）	東京都千代田区丸の内2-1-1 （東京都中央区晴海1-8-12）	656	4.89
株式会社四国銀行 （常任代理人　資産管理サービス信託銀行株式会社）	高知県高知市南はりまや町1-1-1 （東京都中央区晴海1-8-12）	621	4.63
ロック・フィールド取引先持株会	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	570	4.25
岩田　弘三	兵庫県芦屋市	392	2.92
ロック・フィールド社員持株会	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	324	2.42
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	東京都中央区晴海1-8-11	247	1.84
三菱ＵＦＪリース株式会社	東京都千代田区丸の内1-5-1	241	1.79
株式会社みなと銀行	神戸市中央区三宮町2-1-1	206	1.54
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1-2-1	206	1.53
計	－	4,616	34.46

（注）１．株式会社岩田は、当社代表取締役会長兼最高経営責任者岩田弘三が株式の100％を保有する会社であります。

２．上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）　247千株

３．明治安田生命保険相互会社から、平成23年４月５日付で提出された大量保有報告書により、平成23年３月31日現在で673千株を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当第２四半期会計期間末時点における所有株式数の確認ができておりませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、明治安田生命保険相互会社の大量保有報告書の内容は以下の通りであります。

大量保有者	明治安田生命保険相互会社
住所	東京都千代田区丸の内2-1-1
保有株式数	673,600株
発行済株式総数に対する所有株式数の割合	5.03%

（7）【議決権の状況】

①【発行済株式】

平成26年10月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	－	－	－
議決権制限株式（自己株式等）	－	－	－
議決権制限株式（その他）	－	－	－
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式　113,900	－	－
完全議決権株式（その他）	普通株式　13,266,800	132,668	－
単元未満株式	普通株式　13,674	－	1単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	13,394,374	－	－
総株主の議決権	－	132,668	－

（注）1．「完全議決権株式（その他）」の「株式数」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,200株含まれております。また、「議決権の数」の欄には当該株式に係る議決権の数12個が含まれております。

2．「単元未満株式」の株式数の欄には自己株式77株が含まれております。

②【自己株式等】

平成26年10月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社 ロック・フィールド	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	113,900	－	113,900	0.85
計	－	113,900	－	113,900	0.85

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第４【経理の状況】

１．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

２．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、第２四半期連結会計期間（平成26年８月１日から平成26年10月31日まで）及び第２四半期連結累計期間（平成26年５月１日から平成26年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

（1）【四半期連結貸借対照表】

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成26年４月30日）	当第２四半期連結会計期間 （平成26年10月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,731	9,180
売掛金	3,754	3,829
製品	57	71
仕掛品	81	110
原材料及び貯蔵品	503	470
その他	448	459
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	13,576	14,122
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,193	7,056
土地	2,948	2,948
その他（純額）	1,961	1,761
有形固定資産合計	12,102	11,766
無形固定資産		
その他	584	565
無形固定資産合計	584	565
投資その他の資産		
その他	2,187	2,186
貸倒引当金	△10	△10
投資その他の資産合計	2,177	2,176
固定資産合計	14,865	14,508
資産合計	28,441	28,630
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,138	1,264
1年内返済予定の長期借入金	10	10
未払法人税等	267	320
賞与引当金	494	506
その他	2,675	2,747
流動負債合計	4,587	4,849
固定負債		
長期借入金	98	93
その他	503	397
固定負債合計	602	491
負債合計	5,189	5,341

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成26年４月30日）	当第２四半期連結会計期間 （平成26年10月31日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,544	5,544
資本剰余金	5,861	5,861
利益剰余金	11,964	11,970
自己株式	△209	△210
株主資本合計	23,160	23,165
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	40	64
為替換算調整勘定	50	59
その他の包括利益累計額合計	91	123
純資産合計	23,251	23,289
負債純資産合計	28,441	28,630

（２）【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第２四半期連結累計期間】

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成25年５月１日 至　平成25年10月31日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成26年５月１日 至　平成26年10月31日）
売上高	23,983	23,660
売上原価	10,242	10,062
売上総利益	13,741	13,597
販売費及び一般管理費	※ 13,178	※ 12,993
営業利益	562	604
営業外収益		
受取配当金	3	4
保険配当金	14	12
貸倒引当金戻入額	12	－
その他	10	10
営業外収益合計	39	26
営業外費用		
為替差損	6	4
その他	3	1
営業外費用合計	9	6
経常利益	593	624
特別損失		
固定資産除却損	－	18
減損損失	0	73
特別損失合計	0	91
税金等調整前四半期純利益	592	532
法人税等	271	234
少数株主損益調整前四半期純利益	321	297
少数株主利益	－	－
四半期純利益	321	297

【四半期連結包括利益計算書】

【第２四半期連結累計期間】

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成25年５月１日 至　平成25年10月31日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成26年５月１日 至　平成26年10月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益	321	297
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△16	23
為替換算調整勘定	9	9
その他の包括利益合計	△7	32
四半期包括利益	313	330
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	313	330
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成25年５月１日 至　平成25年10月31日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成26年５月１日 至　平成26年10月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	592	532
減価償却費	877	834
賞与引当金の増減額（△は減少）	15	12
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△24	－
受取利息及び受取配当金	△4	△5
支払利息	1	0
固定資産除却損	－	18
減損損失	0	73
売上債権の増減額（△は増加）	46	△73
たな卸資産の増減額（△は増加）	△146	△10
仕入債務の増減額（△は減少）	93	125
その他	△18	82
小計	1,433	1,591
利息及び配当金の受取額	4	5
利息の支払額	△1	△0
法人税等の支払額	△560	△234
営業活動によるキャッシュ・フロー	876	1,362
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△120	△20
有形固定資産の取得による支出	△361	△296
有形固定資産の売却による収入	1	－
無形固定資産の取得による支出	△65	△62
長期前払費用の取得による支出	△119	△65
差入保証金の差入による支出	△25	△11
差入保証金の回収による収入	16	18
その他	△0	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△674	△438
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	85	－
長期借入金の返済による支出	△155	△5
リース債務の返済による支出	△219	△201
自己株式の取得による支出	－	△0
配当金の支払額	△291	△292
財務活動によるキャッシュ・フロー	△582	△499
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	4
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△374	429
現金及び現金同等物の期首残高	8,603	8,331
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 8,228	※ 8,760

【注記事項】

（四半期連結損益計算書関係）

※　販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成25年５月１日 至　平成25年10月31日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成26年５月１日 至　平成26年10月31日）
給料及び賞与	4,706百万円	4,666百万円
賞与引当金繰入額	368	369
支払手数料	3,118	3,073

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

※　現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成25年５月１日 至　平成25年10月31日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成26年５月１日 至　平成26年10月31日）
現金及び預金勘定	8,648百万円	9,180百万円
預入期間が３か月を超える定期預金	△420	△420
現金及び現金同等物	8,228	8,760

（株主資本等関係）

Ⅰ　前第２四半期連結累計期間（自　平成25年５月１日　至　平成25年10月31日）

１．配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	１株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年７月30日定時株主総会	普通株式	292	22	平成25年４月30日	平成25年７月31日	利益剰余金

２．基準日が当第２四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第２四半期連結会計期間末後となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	１株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年12月12日取締役会	普通株式	239	18	平成25年10月31日	平成26年１月20日	利益剰余金

Ⅱ　当第２四半期連結累計期間（自　平成26年５月１日　至　平成26年10月31日）

１．配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	１株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年７月29日定時株主総会	普通株式	292	22	平成26年４月30日	平成26年７月30日	利益剰余金

２．基準日が当第２四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第２四半期連結会計期間末後となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	１株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年12月10日取締役会	普通株式	239	18	平成26年10月31日	平成27年1月19日	利益剰余金

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第２四半期連結累計期間（自　平成25年５月１日　至　平成25年10月31日）及び当第２四半期連結累計期間（自　平成26年５月１日　至　平成26年10月31日）

当社グループは、そうざい事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（１株当たり情報）

１株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成25年５月１日 至　平成25年10月31日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成26年５月１日 至　平成26年10月31日）
１株当たり四半期純利益金額	24円21銭	22円43銭
（算定上の基礎）		
四半期純利益金額（百万円）	321	297
普通株主に帰属しない金額（百万円）	－	－
普通株式に係る四半期純利益金額（百万円）	321	297
普通株式の期中平均株式数（株）	13,280,729	13,280,481

（注）潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

２【その他】

平成26年12月10日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

（イ）配当金の総額……239百万円

（ロ）１株当たりの金額……18円00銭

（ハ）支払請求の効力発生日及び支払開始日……平成27年１月19日

（注）　平成26年10月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年12月4日

株式会社ロック・フィールド

取締役会　御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員　公認会計士　芝池　勉　印

指定有限責任社員 業務執行社員　公認会計士　伊東　昌一　印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ロック・フィールドの平成26年５月１日から平成27年４月30日までの連結会計年度の第２四半期連結会計期間（平成26年８月１日から平成26年10月31日まで）及び第２四半期連結累計期間（平成26年５月１日から平成26年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ロック・フィールド及び連結子会社の平成26年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第２四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

（注）　１．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

２．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。